

平成 31 年 (令和元年) 度 全国学力・学習状況調査の結果について

群馬大学教育学部附属中学校

今年の 4 月に、中学校 3 年生を対象として全国学力・学習状況調査が実施されました。その結果が届きましたので、本校の傾向と課題、今後の学力向上に向けた取組等をお知らせします。なお、この調査は生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し改善を図る目的で実施されます。「国語」「数学」「英語」の 3 教科が実施されました。さらに、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査も含まれています。

(1) 国語・数学・英語に関して

- 国語は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」全ての領域で、全国平均を上回る正答率でした。特に、「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の分野では全国平均を大きく上回りました。
- 数学は、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」全ての領域で、全国平均を上回る正答率でした。特に、「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」の分野では全国平均を大きく上回りました。
- 英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」全ての領域で、全国平均を上回る正答率でした。特に、「外国語理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」「外国語表現の能力」の分野で全国平均を大きく上回りました。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する調査

- 自分で計画を立て、継続的に学習に取り組んでいる生徒の割合が、全国平均よりも多い傾向にありました。
- 社会の動きに関心をもち、自分からすすんで新聞やニュースを見る生徒の割合が、全国平均よりもかなり多い傾向にありました。
- 生徒の間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う生徒の割合が全国よりも多い傾向がありました。



(3) 本調査結果から考えられる本校の課題

- 3教科ともに、選択式や短答式の問題に比べて、記述式の正答率が低くなっているのので身に付けた知識や技能をより正確に活用できるようにすることが求められています。
- 地域の行事に参加できていないので、地域に住む住人の一人であることを自覚し、積極的に中学生の立場を生かしながらより健やかに生活を送れるようにすることが求められています。

(4) 課題解決のための方策

(学校教育目標の 3 つの観点で特に強化していきたい学力向上に向けた今後の取組)

- 【共生】本校の特色でもある学友会活動を今後も充実させ、生徒が話し合いを通して集団決定したことに責任をもって実行できるように支援していきます。
- 【創造】各教科の学習では、授業等を通して身に付けた知識や技能を正確に活用できる思考力・判断力・表現力を今後も育成していきます。
- 【健康】生き方総合や道徳等を通して生徒に伝えている責任感や協調性、自主自立を再度確認し、地域と密着しながら生活する大切さと併せて指導を充実させていきます。